

う立場から守ることを考えてみよう。使えばその物理的・化学的性質が変化することは明らかである。例えば、物理的変化では、工業においては水のほとんどは冷却水として使用されている。よって熱された水はまた冷却すれば再利用できるわけである。さらに有機物質が混入するような生活排水、食品工場排水については、浄化槽、下水道の設置及び第三次処理を備えた処理場を設けなければならぬ。また重金属を含む排水は厳しい総量排水規制を実施するか、または排出させない。このほかにもいろいろな手段はあるが、これらを国や県市町村が、住民の側に立って実施しなければならぬ。

まとまりのない文章になってしまったが、次代を支える資源として、エネルギー源と共に、水を資源の立場から考え守って行きたいと思う。

(学生)

われわれは今「何が大事か」を考えるべきだと思ふ。石油が大事か、洗剤が大事か、水が大事かと問われたいら、誰だって水が大事と答えるだろう。

## 常陸川の水門

小 松 清 次

### ◇ はじめに ◇

総合利水とは、その自然環境を理解し、流域住民の福祉を基幹として自然破壊や公害の因につながらず、巧みに自然の恩恵を受けることであり、これには各系統の緻密な研究結果を集結した立体的ですぎまのない計画のもとに順序を追って事業を進めることが必要である。

人間は、自然の征服者でも支配人でもなく、自然の恩恵を受けて生きている小さな生物としての存在に過ぎない。霞ヶ浦の恩恵もまたこの理念のもとに生じる。

### ◇ 工水確保で水の調節が出来ない ◇

霞ヶ浦の流れは北利根川(旧)となり、北浦の流れは鱒川となり、外浪逆浦に至りて合流し、常陸利根川となり、鹿島郡波崎町至山地先に於て利根本流に注ぐ。この咽喉部に本題の水門が位置する。その目的や経緯は本誌